



シンポジウム

共生と平和の

ジャーナリスト

内橋克人の目指した地平

2025年10月4日(土)

13:30~16:15予定 (開場13:00)

神戸新聞松方ホール

神戸市中央区東川崎町1-5-7

主催 神戸新聞社

後援 兵庫県立大学、NHK神戸放送局

はじめに

神戸新聞社は、神戸出身の経済評論家・ジャーナリストである内橋克人氏の功績をたえるシンポジウム「共生と平和のジャーナリスト・内橋克人の目指した地平」を開催します。

内橋氏は1932年、神戸市須磨区に生まれ、神戸商科大学（現・兵庫県立大学）を卒業後、神戸新聞社経済部の記者として活躍。その後独立し、経済評論家として人と企業の営みをヒューマンな視点で捉えながら、共生経済の可能性を追求されました。

食料・エネルギー・ケアを地域内で自給できる社会のあり方を提唱し、「匠（たくみ）の時代」「共生の大地」など多数の著書を発表。神戸新聞社の客員論説委員も務められました。2021年9月、89歳で逝去されました。

本日のシンポジウムでは、内橋氏と親交の深かった方々をお招きし、同氏が思い描いた理想の経済社会について語り合ってください。

プログラム

- 13：00 開場
- 13：30 開会
〈進行〉
松田 愛里（ラジオ関西パーソナリティ）
- 13：35 主催者あいさつ
西海恵都子（神戸新聞社常務取締役）
- 13：40 ご遺族代表あいさつ
内橋 伸二さん
- 13：45 内橋克人氏 プロフィールならびに業績の紹介
- 14：02 基調講演
「人を大切にする経済を
クニヤ ヒロコ ～内橋克人さんが伝え続けたこと～
国谷 裕子氏（元クローズアップ現代キャスター）
- 14：45 休憩
- 14：55 シンポジウム
「共生と平和のジャーナリスト—内橋克人の目指した地平」
神野 直彦氏（東京大学名誉教授）
棚谷 克巳氏（元NHKプロデューサー）
高村 幸治氏（元岩波書店編集者）
〈司会〉
加藤 正文（神戸新聞社特別編集委員）
- 16：15 閉会（予定）

内橋克人 年譜

1932年7月2日	神戸市須磨区で生まれる。
45年3月17日	神戸空襲を体験。12歳
57年3月	神戸商科大（現兵庫県立大）卒業 神戸新聞入社。経済部に配属
64年3月	退社、フリージャーナリストに
78年1月	夕刊フジで「匠の時代」の連載開始。脚光を浴びる
78年	「ドキュメント 恐慌 サラリーマン恐怖時代」。昭和恐慌から現代を問う
82年	「幻想の「技術一流国」ニッポン」。基礎研究を怠り始めた日本に警鐘
84年	「日本エネルギー戦争の現場」。東京電力福島第1原発を取材。原発への警鐘をいち早く鳴らす
89年	「退き際の研究」。世襲社会の弊害を指摘
93年	NHK「クローズアップ現代」に出演。2014年10月30日まで計約50回出演
94年	「日本会社原論」（全6巻、共編） 「破綻か再生か 日本経済への緊急提言」
95年	「共生の大地」。多元的な経済社会を展望 「大震災 復興への警鐘」（鎌田慧共著）。阪神・淡路大震災の被災地から考える 「規制緩和という悪夢」（共著）。規制緩和と礼賛論を批判
97年	「経済学は誰のためにあるのか 市場原理至上主義批判」。9人の経済学者と対談
98～99年	「内橋克人 同時代への発言」（全8巻）
2000年	「不安社会を生きる」 「浪費なき成長 新しい経済の起点」
02年	「「人間復興」の経済を目指して」（城山三郎共著）
03年	「＜節度の経済学＞の時代 市場競争至上主義を超えて」 「もうひとつの日本は可能だ」
06年	「悪夢のサイクル ネオリベリズム循環」 イーハトーブ賞
08年	NHK 放送文化賞
09年	「始まっている未来 新しい経済学は可能か」（宇沢弘文共著） 「共生経済が始まる 世界恐慌を生き抜く道」
11年	「大震災のなかで—私たちは何をすべきか」（編）。東日本大震災と原発事故を問う
13年	「荒野渺茫」第1、2部。自伝的小説
21年9月1日	急性心筋梗塞で神奈川県鎌倉市の病院で死去。89歳



登壇者プロフィール

国谷 裕子 (くにや・ひろこ)

元NHK「クローズアップ現代」キャスター。大阪府生まれ。米ブラウン大卒。衛星放送「ワールドニュース」などを経て、93年に開始したNHK総合「クローズアップ現代」のキャスターを、2016年3月まで23年間にわたって務める。現在、東京藝術大学理事、自然エネルギー財団理事。菊池寛賞、日本記者クラブ賞、ギャラクシー賞特別賞、放送人グランプリ2016 などを受賞。



神野 直彦
(じんの・なおひこ)

東京大名誉教授。1946年さいたま市生まれ。東大院修了。大阪市立大助教授、東大助教授、同教授、関西学院大教授、日本社会事業大学学長などを歴任。総務省地方財政審議会会長、地方分権改革有識者会議座長などを務めた。専門は財政学、地方財政論。著書に『財政学』『システム改革の政治経済学』『教育再生の条件：経済学的考察』『「分かち合い」の経済学』『経済学は悲しみを分かち合うために：私の原点』『財政と民主主義一人間が信頼し合える社会へ』など多数。



棚谷 克巳
(たなや・かつみ)

元NHKプロデューサー。1958年東京生まれ。早稲田大文学部卒、NHK入局。クローズアップ現代、NHKスペシャルなどの番組を制作。2002年クローズアップ現代「急増 一日契約で働く若者たち」08年NHKスペシャル「セーフティネット・クライシス①～③」（日本ジャーナリスト会議賞 貧困ジャーナリズム功労賞）など。2023年定年退職。現在も業務委託でNHK番組を制作。



高村 幸治
(たかむら こうじ)

元岩波書店編集部長。1947年生まれ。国際基督教大学卒。72年岩波書店入社。編集者として著作集『大塚久雄著作集』『土居健郎選集』『内橋克人 同時代への発言』『磯崎新建築論集』や、岩波講座『精神の科学』、同『現代社会学』、同『文学』、雑誌『へるめす』などを手がけた。2011年退職。「信州岩波講座」企画委員、「信州岩波講座／まつもと」顧問、出版NPO「本をたのしもう会」世話人、「文化講演会／宇城」相談役を務める。



加藤 正文
(かとう・まさふみ)

神戸新聞社特別編集委員。1964年西宮市生まれ。大阪市立大商学部卒。89年神戸新聞社入社。東京支社編集部長、姫路本社編集部長、文化部長、経済部長、論説委員などを歴任。「死の棘・アスベスト」（科学ジャーナリスト賞）、「工場は生きている」「工場を歩く」「主体としての都市－関一と近代大阪の再構築－」（共訳）、「光と風と夢－まちかどの記憶を歩く」（共著）など。

(順不同・敬称略)